

S S N 情報館

今回は、岩槻区の河合小学校の取組を御紹介します。

河合小学校では、地域の資源を活かした教育活動を日々展開しています。

河合小チャレンジスクール「かわいドリーム塾」 ～郷土愛に富んだ手作り紙芝居～

河合小チャレンジスクール「かわいドリーム塾」には、1年生から参加することができます。

今年6月には、地域にお住まいの旧岩槻市教育長の内田茂（うちだ しげる）さんに「船越明神（ふなこしみょうじん）」と「第六天霊験記（だいろくてんれいげんき）」という岩槻区にまつわる2つの伝説を手作り紙芝居で紹介いただきました。

地元の話や紙芝居の生き活きた絵、迫力ある読み聞かせに子どもたちだけではなく、スタッフや参観した保護者も熱心に聞いていました。



内田茂さんの手作り紙芝居にみんな夢中です

手で植えるのはたいへんだ～



今の田植え機ってGPSで全自動運転なんだって！すごいな～

お米作り体験 ～お米探検隊～

毎年、地域の水田をお借りして田植えとお米づくり体験を行っています。減農薬栽培のため、田んぼには、ミズワラビなどの貴重な植物が残っています。お米づくり体験を通じて、農家の人の想いや田植え、稲刈り方法を学びます。

昨年度の稲刈りは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、ボランティアの方々から新米の「彩のきずな」を提供していただき、全校児童が給食で美味しくいただきました。今年は、5月に田植え体験を行いました。秋に稲刈りをして、自分たちで育てたお米が食べられることをみんな楽しみにしています。

また、今回の田植え体験は、朝日新聞（5月20日発行）に活動の様子を掲載していただきました。

地域の自然環境を観察 ～赤坂沼探検～

毎年5月・11月に環境教育ボランティアの方と一緒に、学校の近くの赤坂沼とその周辺の自然体験活動として、野鳥観察、植物採集など、フィールドワークでの学びを重視しています。

観察池で育てた動植物を赤坂沼に還し、貴重な動植物を守る活動に力を入れています。そのため、植物の種の採取や、校内の観察池の環境整備を行っています。学校のプールには、毎年トンボが卵を産み、ヤゴが育つので、清掃の前に捕って成長の様子を観察することもあります。

ボランティアの方と一緒に、観察や調べ学習を行い、赤坂沼の自然の素晴らしさにふれながら、自分たちにできる「よい環境づくり」と「自然を守る活動」を展開しています。

大きいバッタをみつけた



ヤゴからトンボへ！



河合小学校では、地域の方々の御協力を得ながら、豊かな自然環境を活かした様々な体験活動を実施していることが伺えます。子どもたちは、教室だけでは学べない貴重な体験をしています。

令和4年度学校地域連携コーディネーター情報交換会（全体会）を開催しました。

令和4年11月17日（木）に、学校地域連携コーディネーターを対象に、「令和4年度学校地域連携コーディネーター情報交換会（全体会）」を開催しました。情報交換会では、地域学校協働本部（スクールサポートネットワーク）に関する教育委員会からの情報提供をはじめ、各学校における地域学校協働活動の情報交換や協議を行い、成果や課題等の共有を図っています。

今年度から、全ての市立学校がコミュニティ・スクール実施校として熟議や協働を進めています。各学校が子どもの健全育成や学校運営の改善に向けた活動を展開していくためにも、学校地域連携コーディネーターの職務の重要性が益々期待されています。

今回のSSN情報館では、学校地域連携コーディネーターから寄せられた意見を一部御紹介します。

情報交換会ではこんな意見が交わされました！

□仕事のやりがいや魅力について

- 様々な年代の魅力ある方々に出会うことができ、一緒に成長を実感できる。
- 学校教育と無縁の場にいたため、全てが目新しく斬新に感じる。
- 子どものため、学校のために自分の知識・経験等を生かすことができる。
- 地域やPTAの方々に顔を覚えていただいて、外でも声をかけられるようになった。
- 土曜チャレンジスクールスクールにおいて、生徒から「成績が上がった」と笑顔で報告に来た時、やりがいを感じた。



各グループにおいて、活発な意見交換がされました。

□地域学校協働本部の取組状況について

- 学校給食に地域の方を招いて、昔の地域の様子を話してもらった。
- コロナ禍でも活動できる取組を探している。
- チャレンジスクールと地域の避難所訓練をタイアップした。違う団体同士の交流となった。
- 自治会長や民生委員、主任児童委員とのコミュニケーションを大切にして、お互い声をかけやすい環境を作っている。
- ほとんど受入れ実績のない未来くるワーク体験について、新規に協力してくださる事業所を開拓することができた。

□コミュニティ・スクールの取組状況について

- 今後の活動に生かされるよう熟議の方法や内容等を管理職と一緒に検討しながら進めている。
- コロナ禍で児童のあいさつが少ないという話題が出たため、児童のあいさつ運動啓発ポスターを作成し、地域に掲示していく予定である。
- 学校運営協議会にて委員から出た意見をもとに教育委員会へ意見書を提出した。
- コロナ禍における地域とのかかわりの減少をどう活性化させるのが今後の課題である。
- 学校だけでなく、各団体等が抱える課題や悩みに触れ合う中で、互いに解決策を見出すことに意義を感じている。



さいたま市教育委員会では、地域全体で未来を担う子どもたちをはぐくむ体制を推進するため、学校と地域との連携推進の要となる学校地域連携コーディネーターを全ての市立小・中・特別支援学校に配置しています。

学校地域連携コーディネーターについての詳細はこちらへ



スクールサポートネットワーク（SSN）は、地域全体で未来を担う子どもたちをはぐくむため、学校と幅広い地域住民等を結ぶネットワークです。

SSNの中心的役割を担う学校地域連携コーディネーターの更なる資質向上に向けて、引き続き、情報交換会や研修の充実を図ってまいります。

S S N 情報館

「さいたま市教育委員会感謝状贈呈式」を開催しました

さいたま市教育委員会では、長年にわたり教育活動等に御尽力いただいている方に対し、感謝の意を表すため、平成30年度から「さいたま市教育委員会感謝状贈呈式」を開催しています。感謝状は、市立学校において、登下校等における安全・安心の確保や、授業等における学習支援、PTA、青少年育成会、自治会等における様々な活動を通して、学校や子どもたちのためにお力添えをいただいた方に贈呈しています。

今年度は、令和4年12月20日（火）に浦和コミュニティセンター、12月21日（水）に大宮区役所において、贈呈式を開催しました。受賞者の多大なる御功績に対し、教育長よりお一人ずつ、直接感謝状を贈呈するとともに、感謝の言葉をお贈りしました。



細田 真由美教育長による式辞

「さいたま市コミュニティ・スクールフォーラム」を開催しました



事例発表校と細田 真由美教育長とのトークセッション

令和4年度からコミュニティ・スクールが全ての市立学校で導入されました。これまで本市が築いてきた、地域で子どもを育てる体制基盤を一層活用し、地域の力を生かした学校運営や教育活動を実現していく必要があります。「地域とともにある学校づくり」の推進のために「学校運営協議会」を校長の学校経営のツールとして活用するためのヒントを探るとともに、学校地域連携コーディネーターが自身の役割を再認識するために、令和5年1月31日（火）にさいたま市立大宮国際中等教育学校グローバルホールにおいて「さいたま市コミュニティ・スクールフォーラム」を開催しました。

フォーラムには、市立学校長や学校地域連携コーディネーター、さいたま市コミュニティ・スクール推進協議会委員が参加しました。

市立学校3校によるコミュニティ・スクール事例発表と、その3校と教育長とのトークセッションを行いました。また、「コミュニティ・スクールを活用した学校経営」や「コミュニティ・スクールとスクールサポートネットワークの一体的推進」といった視点で学校間で意見交流も実施しました。

「コミュニティ・スクール全校実施元年度」として、保護者や地域住民等との信頼関係を一層深めながら、地域総がかりで教育を実践する礎を築くことができました。



参加者同士の情報交換



学校・家庭・地域がこれまで以上に連携・協働して、子どもたちの未来を見据えた教育活動を展開していきます。

さいたま市コミュニティ・スクール
についての詳細はこちらへ



さいたま市は、学校・家庭・地域の連携・協働により、コミュニティ・スクールを全校において実施しています。これからも、子どもも大人も学校も地域も元気になる、「生涯の学びを通じて自分とまちが輝く未来」の創造を推進していきます。